



総 題 霊の結ぶ実

SDA聴覚しょうがい者友の会教材部

第 9 課 霊の結ぶ実み にゆうわは柔和 浦島智加男 2010, 2, 20～2010, 2, 26

はじめに 2月20日（土曜日）

「柔和」という日本語は、おとなしくて穏やか、ものやわらかな態度という意味があります。

さらに細かく分けると「柔」という言葉には①もろい、弱い ②しなやか ③おだやか ④やさしい、おとなしいなどの意味があります。「和」には①仲良くなる、争わない ②静かになる ③やわらかくなる ④逆らわないなどの意味があります。

ガイドの中に「柔和には弱さを連想させる」という、イメージがあると何度も書いてありますが、日本語の意味を見る限り、確かにそう見えます。しかし、聖書の中に出てくる「柔和」は、もっと広い意味を持っています。

暗唱聖句の「柔和な者」は、自分の無力と弱さを認めた心の低い人のことです。わたしというものがなくなって死んでいるような状態です。それが幸いな状態だと言っています。神様に頼る以外に何もできないからです。

1. 柔和と謙遜けんそん 2月21日（日曜日）

イエス様が、私は心のへりくだった者だから私のまねをしなさい、と呼びかけておられます。自分は、知恵もあるし、人生の経験もたくさんしてきた、いまさら神様について教えてもらう必要などないと、高ぶる人、キリストだとか救いだとかを必要とっていない人は、信仰とは縁（関係）のない人です。イエス様を手本として「柔和で心のへりくだった人」だけが、聖書を読める人、信じることができる人です。「高く、あがめられて、…その名を聖と唱えられる方がこう言われる。私は高く聖なところに住み、打ち砕かれて、へりくだる霊の人とともにあり、へりくだる者に命を得させ、打ち砕かれた心の人に命を得させる」イザヤ書 57章 15節

2. 柔和の模範 2月22日（月曜日）

ここには、旧約聖書に出ている、3人の信仰の先輩が残してくれた「柔和」の手本が書かれています。

一つは、アブラハムと甥おいのロトは、一緒に行動していましたが、夫々の飼っていた家畜が多くなりすぎて、餌を食べる草地が足りなくなり、何かと牧童たちの間で争いが起きました。そこで、二人は話し合いで、別れて生活をするようになりました。二人は平地を見下ろせる高い所に登り、自分の好みのところを選ぼうというこ

とになりました。これまで叔父さんのアブラハムに、さんざんお世話になったので、ロトは先ず、叔父さんに選んでもらい、その後で選ぶというのが礼儀でしたが、ロトは自分が気に入ったところを選び、さっさとそこに移って行きました。アブラハムのこのような態度は「柔和」であると、ガイドの著者は示しています。

次は、自分（ヨセフ）を奴隷としてエジプトに売り払ったお兄さんたちが、食料に困ったとき、エジプトに食料を求めてきたのを知ったヨセフは、彼らに復讐（しかえし）をせずに、丁寧（ていねい）に迎えた話です。

3 番目の話は、神にそむいたイスラエルの人々に、悪いことは悪いということを示し、神の前に謙遜（けんそん）になり、罪を言い表して悔い改めるよう教えました。これも「柔和」の模範です。

3. 柔和の重要性 2月23日（火曜日）

「柔和」というこの聖霊の賜物をいただいていることは、①自分のために大切です。自分が罪びと（すなわ）であって、私をこの罪から救ってくださるのは、神様以外にだれもいないと素直にさせてくれるからです。②他人に祝福となります。「柔和」な生き方をしているあなたを見て、周りの人たちが、この人は、立派（りっぱ）な人だと信用してくれるようになります。信用できる人から聞くとキリスト教のことも信用してくれます。③神様もそれによって、栄光を受けられます。この人の、柔和と優（やさ）しさは、神様から来ているのだということが、他の人に伝われば、神様があがめられます。

4. 柔和の実を實踐する 2月24日（水曜日）

ここに並べてある聖句の共通点は、イエス様が残して下さった模範（もはん）にならって、クリスチャンが忍耐強く、優（やさ）しく、相手を尊重（そんちょう）（大切に）して謙遜（けんそん）な態度で人に接（せつ）するなら、その人の心も柔（やわ）らかにさせられ、対人関係（たいじんかんけい）も良くなり、ひいては、伝道にも大きな効果（こうか）が表れると説いています。

5. 柔和の報酬 2月25日（木曜日）

先々週（第6課・43頁）のガイドに「情けは人のためならず」ということわざが書いてありました。人に親切（こうい）にすれば、その親切は必ず自分にも返ってくる、という意味ですが、それは、人の行為（こうい）を見ておられる神様が、親切な人に報酬（ほうしゅう）（ごほうび）を下さっているのです。「柔和」な生き方ができるということは、その人が神様に心を低くしている証（あかし）です。「柔和な人は地を受け継ぐ」の「地」とは、別の言葉でいえば「天国」です。

神が支配（おさ）（治める）しておられる所を「天国」と言います。あなたの心が神に支配（おさ）していただいているならあなたの心が「天国」です。あなたの家庭が神の支配（おさ）を受けているならそこは「天国」です。神の支配（おさ）を受けて生きているあなたは、すでに天国（じゅうみん）の住民（じゅうみん）なのです。柔和な人は、「地」すなわち天国（じゅうみん）を受け継いでいます。